

山田町「新たな観光拠点」基本計画 ～参考資料～

令和2年3月

岩手県下閉伊郡山田町

目 次

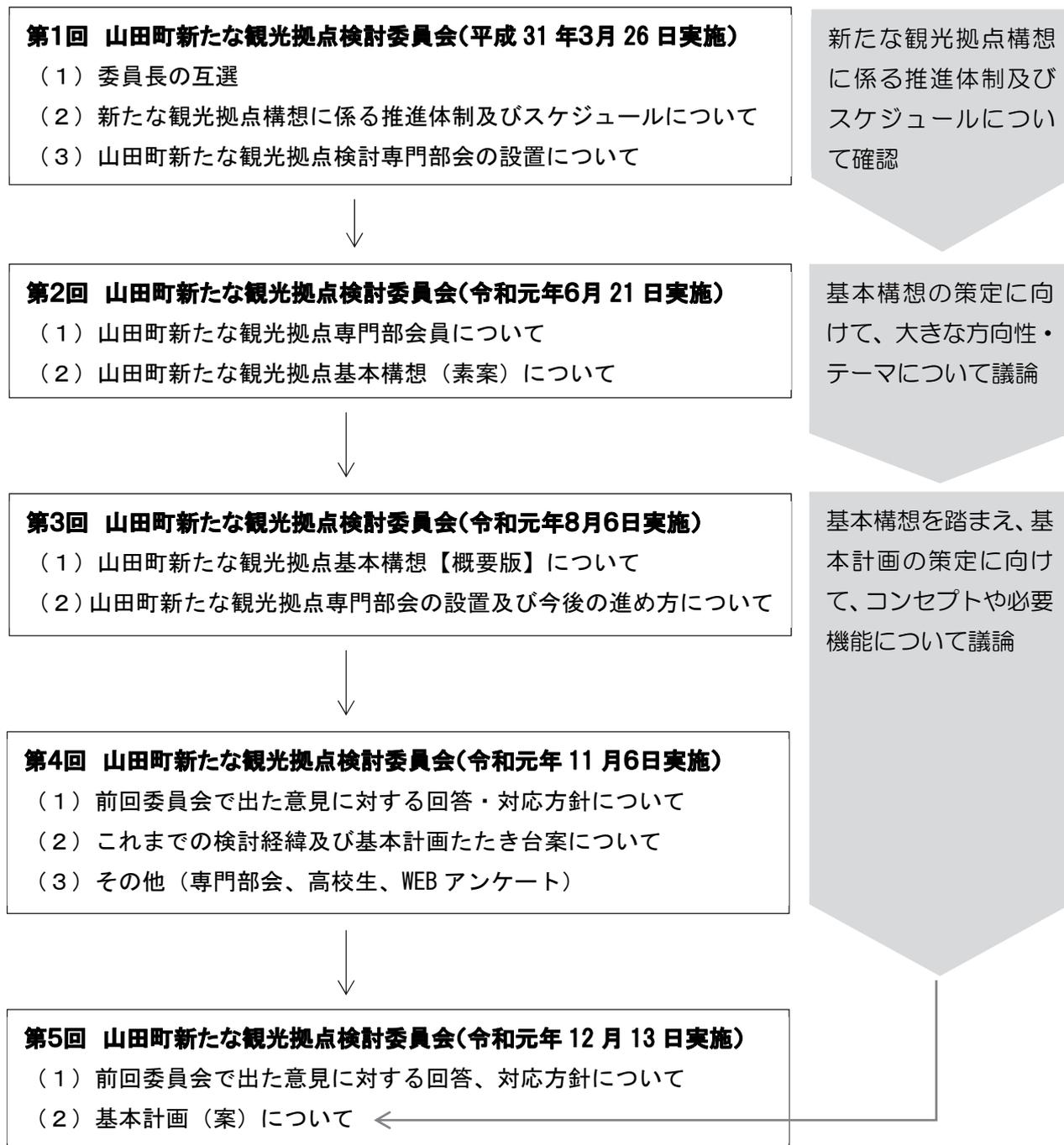
2. 参考資料

2-1	検討委員会での調査検討経緯	2-01
2-2	検討専門部会等での調査検討経緯	2-11
2-3	WEB アンケート調査	2-31



2-1 検討委員会での調査検討経緯

基本構想・基本計画の策定にあたり、「山田町新たな観光拠点検討委員会」を組織し、下図のように全5回の検討委員会を開催しました。



図表 2-1 検討委員会の検討フロー図

(1) 第1回山田町新たな観光拠点検討委員会**■実施概要**

日付：平成31年3月26日（火） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：9名

■出席者

図表 2-2 第1回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭		○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄		○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 豊間根 章一		○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■議事概要**【議題】 委員長の互選**

- ・本検討委員会は、委員長を三宅諭氏、副委員長を阿部幸栄氏とする。

【議題】 新たな観光拠点構想に係る推進体制及びスケジュールについて

- ・本検討委員会で、「新たな観光拠点」の整備内容、整備スケジュールなどを議論する予定としている。
- ・前山田病院の解体は、平成31年7月に開始し、令和元年12月には更地になっている予定で計画している。

【議題】 山田町新たな観光拠点検討専門部会の設置について

- ・専門部会の部会員選定にあたり、新たな観光拠点が「今」のためのものなのか、それとも「10年後」のためのものなのか考慮する必要がある。10年後を想定して計画するのであれば、学生を選定することも考えられる。



(2) 第2回山田町新たな観光拠点検討委員会

■実施概要

日付：令和元年6月21日（金） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：8名

■出席者

図表 2-3 第2回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 豊間根 章一		○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		×
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■議事概要

【議題】山田町新たな観光拠点専門部会員について

- ・部会員について、農協や漁協に所属する部会員については、「推薦者」や「代表者」という形で選出した方が良い。

【議題】山田町新たな観光拠点基本構想（素案）について

- ・通過されないように、特徴的な商品・サービスを提供し、ここが「目的地」となるような道の駅を目指すべきである。
- ・これからの世代として、地元高校生など若い人の意見も取り入れたい。
- ・山田町は夏が短いため、屋外で遊ぶことのできる期間が限定的である。屋外よりも屋内を充実させるべきである。
- ・道の駅整備の了解をスムーズに得るためにも、三陸国道事務所の方に委員会に同席してもらいたい。

(3) 第3回山田町新たな観光拠点検討委員会

■実施概要

日付：令和元年8月6日（火） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：10名

■出席者

図表 2-4 第3回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		○
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6～	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○

■議事概要

【議題】山田町新たな観光拠点基本構想【概要版】について

- ・人が立ち寄る為には綺麗なトイレを設置することが重要な要素となる。
- ・山田町単体で完結するのではなく、周辺市町村と連携するなど、山田町内外の周辺地域とのかかわりを重視すべきである。
- ・地元で普段、みんなが食べている日常の食事を、観光客に提供出来たら良い。
- ・観光情報はSNSの活用が一般的であるが、全ての情報をSNS上に出すのではなく、山田町のこの施設に来て初めてわかる情報を用意しておくことも有効である。
- ・前山田病院跡地のみに焦点を絞るのではなく、廃校となる山田北小学校の跡地利用との連携についても考えていくべきである。



(4) 第4回山田町新たな観光拠点検討委員会

■実施概要

日付：令和元年11月6日（水） 13:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：9名

■出席者

図表 2-5 第4回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		×
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6～	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		○
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		○
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○

■議事概要

【議題】 前回委員会で出た意見に対する回答・対応方針について

- ・第3回検討委員会において主な指摘事項として取り上げられた内容について、以下のような回答・対応方針を委員に提示し、了承を得た。

図表 2-6 第3回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針

	第3回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
1	・当検討委員会の位置付けはどのようになっているか。	→事務局より提示される構想・計画について地元目線の意見を頂く場として位置付けている。あくまで、決定するのは町議会となる。
2	・現在の道の駅「山田」を存続させつつ、新道の駅も整備して欲しい。ひとつの自治体に2つの道の駅を整備することは可能なのか。	三陸国道事務所 沼田課長回答 →道の駅の設置間隔としては、約10km以上離れていることが望ましいと言われている。 →ひとつの自治体に道の駅が2つあってはならないという決まりはない。ただし、同じ性格の道の駅を、近い距離の中で2つ維持しているという事例はない。2つ持つのであれば、お客さんの取り合いが起こらないように、性格の違うものとして、整備する方が好ましいのではないかと思う。
3	・周辺道の駅の駐車台数について、やまびこ館の駐車台数なども知りたい。	→基本計画資料内に反映。やまびこ館、久慈、高田松原を追加。
4	・新道の駅の中にATMを設置するなどのコンビニ機能を導入してみてもどうか。	→基本計画内で対応を記述。
5	・トイレの「綺麗さ」は道の駅利用において重要な要素となるため、トイレ整備に力を入れてどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
6	・新道の駅を整備するにあたり、近隣市町村との連携を図ることを検討してみてもどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
7	・牡蠣・ホタテ・ホヤなど山田町の特産品や、郷土料理を提供できる施設が欲しい。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
8	・新道の駅を整備するにあたり、「都会的な綺麗さ」より、山田町の「田舎っぽさ」を重視してみてもどうか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
9	・鮮魚をそのまま「素材」として売のではなく、捌いて販売するなど、消費者のニーズに合わせた販売方法を検討していく必要がある。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。



	第3回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
10	・住民・国内観光客・外国人観光客といった幅広いターゲットに対し、それぞれが満足できるような施設の整備が必要ではないか。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
11	新道の駅の整備を単独の事業として考えるのではなく、山田北小の廃校利用など、町内の他の施設との相互関係や、波及効果を考慮した整備が必要ではないか。	→その方向で検討を進める。基本計画としては、新たな観光拠点に的を絞り整理する。
12	新道の駅を、山田町のリアルタイムな情報を発信する場として整備してはどうか。	→SNS等を利用したリアルタイムの情報発信は重要な要素として認識している。運営者に求めていく事項として整理する。
13	施設から山田湾を眺めることが難しいならば、せめて情報発信に力を入れ、山田湾を一望できる場所の案内もあると良い。	→同様の意見が部会からも得られていることを踏まえ、基本計画内で対応を記述。
14	管理運営について、既存の組合が担うのか、あるいは新たな団体を立ち上げるのか検討する必要がある。	→今後の検討になる。基本計画としてまとめられた内容を踏まえて運営できる事業体の組成が望ましい。

【議題】 これまでの検討経緯及び基本計画たたき台案について

- ・食品加工の機能は廃校となる山田北小学校と分担することも考えられる。
- ・計画地から山田湾は望めないが、山田湾や地域の祭り等、町の魅力を発信する為の映像などの仕掛けが必要である。
- ・新たな観光拠点から町中に人が流れるような仕掛けが大事である。新たな観光拠点の整備は、新たなまちづくりをするという意味で取り組まなければいけない。
- ・新たな観光拠点の施設内にバス停の待合室も兼ねた空間を考えてほしい。

(5) 第5回山田町新たな観光拠点検討委員会**■実施概要**

日付：令和元年12月13日（金） 9:30～

場所：山田町役場4階特別応接室

参加人数：8名

■出席者

図表 2-7 第5回検討委員会の出席者一覧

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	岩手大学農学部	准教授 三宅 諭	委員長	○
2	山田町商工会	会長 阿部 幸栄	副委員長	○
3	山田町観光協会	会長 川石 睦		×
4	山田町特産品販売協同組合	代表理事 藤原 長一	8/6~	○
5	山田漁業協同組合連合会	代表理事会長 生駒 利治		○
6	山田町農業委員会	会長 佐藤 清悦		×
7	山田町建設業会	会長 阿部 誠二		×
8	山田町婦人団体協議会	会長 後藤 夕香里		○
9	岩手県北自動車株式会社	宮古地区統轄長 佐々木 隆文		○
10	山田町観光協会	沼崎 真也	川石委員 代理	○

■オブザーバー

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	三陸国道事務所交通対策課	課長 沼田 龍治		○



■議事概要

【議題】 前回委員会で出た意見に対する回答・対応方針について

- ・第4回検討委員会において主な指摘事項として取り上げられた内容について、以下のような回答・対応方針を委員に提示し、了承を得た。

図表 2-8 第4回検討委員会での主な指摘事項に対する回答・対応方針

	第4回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
1	<ul style="list-style-type: none"> ・道の駅「やまだ」の従業員は11人程度だが、新施設ではより人員が必要となり、人員の確保が困難ではないか。 ・従業員数に関して、オープン当初は少人数とし、必要に応じて増員してはどうか。60人程度の団体客への対応はあまり考慮しなくても良いのではないか。 	<p>→傾向として、新道の駅のオープン時には相当の集客が見込まれ、その時点で多くの雇用を検討することが必要と考えられます。ご指摘の人員の確保は重要な課題事項として、今後、運営を担う事業者組成の中で検討をしていきます。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> ・食品加工の機能は、山田北小の廃校跡地に機能分化してはどうか。 	<p>→山田北小の廃校後の活用方策については現時点では明確なものはなく、本委員会でのアイデアも踏まえながら今後検討をしていく予定です。</p> <p>→将来的な北小との連携を見越し、道の駅としては、なるべく最小限の規模として機能設置を行います。</p>
3	<ul style="list-style-type: none"> ・展望台を作って、山田湾を眺められるカフェや食堂にしてはどうか。 ・関口川河口部の防潮堤緑地をビュースポットとして整備してはどうか。 	<p>→展望台の設置については、道の駅として整備する場合は相当の高さが必要であるため、今回の計画には盛り込みません。</p> <p>→ビュースポットを形成できるように防潮堤整備事業者である岩手県と協議を開始しています。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> ・山田湾の景観や、山田町で行われている祭りの様子などの映像を大きな画面に投影することによって、山田町の自然・文化を道の駅でも楽しめるようにしてはどうか。 	<p>→情報発信の手法のひとつとして、基本計画に盛り込みます。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・鯨と海の科学館の機能を新道の駅に取り入れ、子どもが楽しめるようにしてはどうか。子どもがそのコンテンツを楽しんでいる間、親は自由に買い物を楽しめるのではないか。 	<p>→町内の機能分化の観点から、鯨と海の科学館で実施されているコンテンツとの差別化は必要であると考えます。一方、新道の駅において子どもが夢中になれるコンテンツの整備に関しては今後検討を進めていきます。</p>
6	<ul style="list-style-type: none"> ・松茸の競りは地元の人でもあまり観たことがなく、興味深い。 ・また、「松茸」は道の駅の運営（売り上げ）においても重要な要素である。 	<p>→松茸の競りに関しては、地元客・観光客の双方に興味を持ってもらえるコンテンツであることを認識したため、実現に向けて積極的に検討を進めていきます。</p>
7	<ul style="list-style-type: none"> ・想定している機能を全て包括できる建物を最初から整備するのではなく、ソフトの整備に合わせて建物も増築していく流れの方が良いのではないか。 	<p>→No 2の指摘・対応に関連</p>

	第4回検討委員会での主な指摘事項	回答・対応方針
8	・いかに新道の駅から町中へと人の流れをつくるかについて、ソフト面での対応についてより検討したい。	→重要なテーマとして認識しています。観光情報の出し方として今後検討を進めていきます。 No 4、5の指摘に関連
9	・自動車業界の動向次第ではあるが、EV車の専用駐車場をより多く整備した方がいいのではないか。	→今後運営者と協議していきます。 →駐車場内に冗長性を持たせた計画とします。
10	・バスの出入りが建物から視認できるような場所に、バス停を配置して欲しい。 ・寒い冬に屋外でバスを待たなくても良いように、待合室の機能が欲しい。	→バス乗り場の位置については、ご指摘の内容に合わせて修正します。関連して、施設内レイアウト計画でもバス利用者動線について考慮します。

【議題】基本計画（案）について

- ・「牡蠣、食うけえ、こ！」という山田町オリジナルのキャッチフレーズを、新たな道の駅の整備コンセプトに積極的に使ってほしい。
- ・山田町は現状、食材は豊富にあるものの、加工食品が弱い。安定した運営を行っていくにあたり、加工食品を充実させる必要がある。
- ・デジタルサイネージに関しては、ランニングコストや技術進歩の速さを見極めた上で、導入の検討を行った方がよい。
- ・トイレを目的とする利用者が産直施設等に立ち寄るような動線の計画が必要である。
- ・発起人会のような、運営について検討する組織を少しでも早く組織した方がよい。

基本構想・基本計画の策定にあたり、「山田町新たな観光拠点検討専門部会」の開催を全3回、また県立山田高校3年生を対象としたワークショップを1回開催しました。

第1回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年8月21日実施）

- (1) ワークショップ形式の議論 60分
 ～山田町の強み、良いところ、どのような資源があるか～
 ～どのような機能が道の駅にあるとよいか～

資源の棚卸し、資源・魅力の再確認！



山田町新たな観光拠点 県立山田高校生ワークショップ(令和元年9月18日実施)

- (1) ワークショップ形式の議論
 ～新たな道の駅に必要な機能・コンテンツについて～
 ～新たな道の駅の商品アイデアについて～



第2回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年9月18日実施）

- (1) 事例紹介の講演（仮題：全国の道の駅での取り組み事例紹介）
 ※『道の駅 旅案内 全国地図』編集長 守屋之克氏
 (2) ワークショップ形式の議論
 ～競争力のある魅力テーマの設定～
 ～新たな道の駅に必要な機能・コンテンツについて～

事例を学びながら、山田町の道の駅に必要なことを議論
 ターゲットを明確に！



第3回 山田町新たな観光拠点検討専門部会（令和元年12月6日実施）

- (1) ワークショップ形式の議論
 ～施設のコンテンツ・機能について～
 ～配置計画案について～
 ～施設の運営のあり方について～
 ※どのような運営が望ましいのかなど全体で意見交換

そのために必要な施設の機能について議論し、とりまとめ

図表 2-9 検討専門部会等の検討フロー図

(1) 第1回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年8月21日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：13名

※参加者名簿は別紙



図表 2-10 第1回専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢13名にお集まりいただき、第1回検討専門部会を開催しました。

山田町では、前山田病院跡地を「新たな観光拠点」として、「道の駅」として整備する基本的な構想について説明しました。当検討専門部会では、基本構想の内容をうけて、ワークショップ形式により、山田町の強み、良いところ、どのような資源があるのか、どのような機能が道の駅にあるとよいか、というテーマで約一時間の熱い議論を重ねました。

【観光施設検討専門部会】

- ・山田町の自慢として、カキ・ホタテの海産物やシイタケ等の特産品の他、ひゅうず・すつとぎ等の郷土菓子、朝ラー・朝イカ刺しのような独自の食習慣など、食に関するキーワードが多く出されました。また、町の祭りに命かける人、祭りに合わせて多くの方が帰って来ること、といった町の人の故郷への愛着が見出されました。
- ・新たな拠点には、周辺施設に無い大型観光バスツアー客を受け入れられる大きな食事所やRVパークの設置の他、大試食コーナー、購入した食材ですぐに網焼きができるスペース、漁師や農家が売場で食べ方を教える等、町の良い物を消費者に訴える仕組みが大事だという意見を得ました。
- ・さらに、山田北小学校のゲストハウスとしての利用など、周辺の施設や環境を活かしていくアイデアが出されました。

【物産施設検討専門部会】

- ・関口川河口部が「釣りスポット」であることに着目し、釣り具のレンタルや氷のサービスを行うことによって、新たな拠点を「釣りの拠点」にしてはどうか、といった意見がありました。
- ・「山田湾を望めるトイレの設置」など山田町独自の要素を取り込んだトイレの設置を望む声や、綺麗なトイレの整備を望む声など、トイレの整備に関する意見が多く出されました。

◆まとめ

- ・山田町の資源は何と言っても「海」であり、山田湾の美しい景観や、豊かな海産資源、そこから生まれる食文化であることを再認識しました。また、キーワードとして、「海に見えるトイレ」「朝のイカ刺しなど地元食材のレストラン」「コーヒー屋など地元テナント」「良い情報のぎゅっと詰め込み」「体験ができる」「釣り」「山田産のものしか置かない産直」などが出されました。
- ・また、前山田病院跡地以外に、「北小学校」のゲストハウス化や、「関口川河口」の釣り公園化など、周辺資源との連携方策についても議論されています。
- ・今後、こうしたキーワードをより具体的にイメージしながら、「基本計画」の検討を進めます。



図表 2-11 第1回検討専門部会 出席者一覧

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		×
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		×
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		○
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		○

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		○

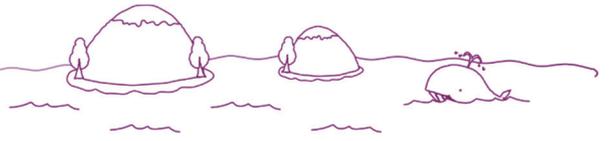
◆観光施設検討専門部会の記録

図表 2-12 第1回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録 (1/2)

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
自然／環境	<ul style="list-style-type: none"> 山田湾 荒神様 夜は海が静か 夕風 大島 (オランダ島)、小島 やませ (夏)、けあらし (冬) 風の月夜 ビュースポット 徒歩5分圏内に海 牡蠣、ホタテ、赤ざら貝 すじこ入りおにぎり 藤七屋の朝ラーメン うどん 小豆ばつとうソフト おばあちゃんのお団子、お饅頭 ひゅうず、すつとぎ 八とうを夏に食べる 椎茸、松茸 椎茸吹き込みご飯 水産加工品 養殖、海産物 瓶ウニ のしか 山田せんべい 正月の雑煮 (くるみだれ) スナックが多い 	<ul style="list-style-type: none"> 展望台 冬のグランピング (冬にできる遊びが少ないので) 裏の山を使ったアクティビティ、山を登らせる、トレッキング等 レベルの高い地元食材を出すレストラン 観光バスでの団体客が入れる食事処 (80人席程) こだわった美味しいコーヒー屋・洋食店 パックに入れて並べるのではなく、魚は氷上にそのまま並べる 大試食コーナー (利き酒、利き塩辛) (儲かるか、よりもまず手に取ってもらう) 「山田産」しか置かない店 買ってすぐに網焼きができる、浜焼き・カキ小屋のようなサービスを提供する。海産物だけでなく松茸、するめ切り身も焼ける。 ホタテ山盛り丼のようなインパクトのある商品提供 (鶴亀屋食堂 (青森県) で提供している山盛りまぐろ丼のイメージ) 屋に地魚 (刺身) が食べられる食事処 (夜に提供する飲食店はあるが昼間は少ない)
遊び／イベント	<ul style="list-style-type: none"> シーカヤック マリネレジャー はしご酒 (春) (10年前から6回程開催している) 祭り (八幡大杉) 花火大会 パドルフェス 体験観光 ちやぶ台返し 生け簀の魚を釣れる (子供たちに体験してもらう) ここに来れば何かすぐ出来る体験コーナー (貝むきや貝殻アクセサリーづくり等) お客さんを町中に運ぶツアーの発券所 バスロータリー アスレチック、子供にやさしい木製遊具コーナー ドッグラン 「お金」になる情報の提供 	
産業／文化	<ul style="list-style-type: none"> オランダ船ブレスケンス号が1643年に入港した 鉱泉 (光山、嶋田) 六角堂 捕鯨の歴史 朝イカ刺し&大根おろしを食べる 盛岡と山田を結んだ山田線の歴史 天然の港 震災関連の展示、地震体験 (揺れが体験できる等) 津波の高さが分かる展示 (鯨と海の科学館にあるようなもの) 「海の町」を体験できるように船を置いておく (田老のように) 中途半端な展示はいいらない 	

図表 2-13 第1回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録 (2/2)

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
町の人／子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> 町の半分の人には知り合いになれる ガイドできる漁師がいる まつりに命を懸ける人たちがいる 9月の祭りには皆、町に帰って来る 死んだ魚は食べられないという子供たち (常に新鮮なものを食べている) 	<ul style="list-style-type: none"> 常に目利きスタッフや漁師・農家(生産者)が売り場において選り方や食べ方、珍しい食材(マリンボウ等)の調理の仕方を教えてくれる。生産者も消費者と直接会話することで需要の把握や販路の拡大もできる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ICから近いまとまった場所 宮古の近く(カーフェリー寄港地) まちなかに近い 三鉄山田駅 	<ul style="list-style-type: none"> RVパーク (車中泊に対応、三陸道沿いにはない) 24h シャワー イベントスペースに屋台、キッチンカーを呼ぶ (駐車場の一面を使うのではなく専用スペースとして確保) 陸中山田駅から道の駅までの周遊、連携 山田北小のゲストハウス、臨時駐車場利用 アシスト付き自転車のレンタル



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 2-14 第1回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

山田町の「自慢」		道の駅やその周辺での活用の仕方
自然／環境	<ul style="list-style-type: none"> ・やませ ・雪が少ない ・オランダ島、小島 ・山田湾 	<ul style="list-style-type: none"> ・「山田湾を望めるトイレの設置」など、山田町独自の自然・環境を活かした、ここしかない特徴的なトイレ ・山田北小の廃校利用との連携を図る。 ・山田湾、関口川河口部は釣りの穴場。釣り客を呼ぶ。「釣りの拠点」。 ・海の幸など魅力は強いが生産者の高齢化が課題となっている。そのため、漁師の方が、漁協を通して、通さなくても個人で商品を卸せるなど、仕入れの仕組みの構築。収入の増加につなげて欲しい。 ・生け簀の設置により、海産物の直売機能や、新鮮な魚介類を飲食できる機能を充実させる。(例：どんぶりに乗せるネタを自由に選べる海鮮丼など) ・製米機の設置 ・お客さんが自分で釣った地魚を、自分で魚の下処理や加工ができるスペースを用意し、そのままBBQで焼くことができる設備 ・上記設備は、商品製造だけでなく、魚介類の捌き方や調理法を教える「体験」スペースとしても活用する。 ・浜焼きやバーベキュースペースは、団体客でも対応できる規模で整備する。また、ペット同伴でも楽しめるよう、新道の駅の外構にそのような空間を整備する。 ・「とっと燻」など、オリジナル商品を開発できる加工室を整備する。
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> ・山田の醤油 ・鹿、熊、イルカ ・山菜 ・塩うに ・塩辛 ・磯ラーメン ・キリキリせんべい ・松茸、椎茸 ・牡蠣、ホタテ、しゅうり貝 ・定置網で捕れた地魚 ・山田生せんべい ・すつとぎ、ひゅうず ・生うに ・あわび ・朝イカ刺し ・新巻鮭 	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土料理（小豆ばつとうなど）、カキフライ定食、ワカメソフトなど、山田産の素材を活かした商品を中心に販売する。 ・朝イカ刺しなど、地元の人と同様の朝食メニューを提供する。 ・地元の既存店舗をテナントとして誘致。うどん、唐揚げなどを販売するファーストフード店や、パン屋などが出店しやすいよう、新道の駅内にテナントブースを用意する。
イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・河口部での魚釣り ・オランダ島・小島でのシーカヤック ・すごく綺麗なのは小島、子どもは泳いで行く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「釣り」の拠点として、釣り具のレンタルや氷のサービスを行う。 ・新道の駅周辺でカヤック体験が行えるよう、新道の駅でもカヤックの貸し出しサービスを行う。また、カヤックをしている光景を新道の駅周辺で見られるよう工夫する。
産業／文化	<ul style="list-style-type: none"> ・現道の駅も賑わいの拠点、現運営者の立場としては、道の駅として残して欲しい。 ・捕鯨の基地 ・イルカ漁、突きん棒 	
子どもたち	<ul style="list-style-type: none"> ・過去に総理大臣を輩出した ・パラリンピックの選手 	



(2) 山田町新たな観光拠点 県立山田高校生ワークショップ

■実施概要

日付：令和元年9月18日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：24名



図表 2-15 県立山田高校生ワークショップの様子

県立山田高校3年生、計24名にお集まりいただき、新道の駅に欲しい機能、コンテンツや、新道の駅で販売したい商品のアイデアについて、ワークショップ形式で議論・発表を行いました。

当日は、まず「道の駅やまだ」の見学を行い、その後町役場に移動し、4グループに分かれてワークショップを行いました。高校生が新・道の駅への提案として事前に考えていたことに、「道の駅やまだ」の見学を通して感じたこと、考えたことを踏まえた発表がされました。

発表では、高校生ならではの柔軟な発想から出されるアイデアや、将来利用する可能性のある様々な人の視点に寄り添ったアイデアが出されるなど、新道の駅整備にとって有意義な提案が多く出されました。

■新道の駅の機能・コンテンツについて

- ・巨大な観光マップの設置や、壁、天井を利用して巨大な山田町の地図をつくるなど、「普通」を超えた施設にしたいという意見が出されました。
- ・ホタテ釣りで獲ったものや、産直コーナーで買ったものなど、その場で入手した食材をその場ですぐに食べることのできる空間／サービスを提供してはどうか、という意見が複数出されました。
- ・ドライバー、乳幼児・高齢者、ペット同伴の観光客など、あらゆる立場のニーズに合わせたリラックスマルームを設置することが提案されました。足を伸ばしてくつろげることや、一つ一つのスペースに簡単な仕切りを設けること、ペット同伴の空間は他の空間とは少し話して設置することなど、利用する側の立場になって考えられた具体的な提案がされました。
- ・新道の駅から、オランダ島や「鯨と海の科学館」に観光客を運べるシャトルバスを運行するなど、新道の駅を山田町全体に人を広げる拠点とすることが提案されました。

■新道の駅の商品アイデアについて

- ・山田町の特産品である「山田生せんべい」を生地として利用した、山田生せんべいクレープが提案されるなど、すでに現在山田町にある特産品を利用して新たなスイーツを開発する提案がされました。
- ・また、オランダ島や小島が浮かんでいる山田湾の風景を表現したカレーが提案されるなど、山田町を想起させる風景や形状を模した新商品を開発することも提案されました。
- ・そして、山田町が誇る「海の幸」と「山の幸」を堪能できる商品も多く提案されました。「海の幸」と「山の幸」どちらかに特化した商品が提案されると同時に、「シイタケと鮭のホイール焼き」のように、「海の幸」と「山の幸」の両方に恵まれた山田町ならではの商品も提案されました。

図表 2-16 県立山田高校生ワークショップでの提案内容

高校生の提案	
内装／外装	<ul style="list-style-type: none"> 窓や床に絵を描く。 窓を山田の名産物（魚、貝）の形にする。 床に山田の砂と貝殻を敷き詰めて、その上に透明なガラスを敷く。 オランダ島をオマージュした外観
	<ul style="list-style-type: none"> 二階建て、テラス付き（海が見えるように） 通路を広くし、ベビーカーや車いすを通りやすくするなど、バリアフリーを意識する。 内装のほぼ全面を使って山田町の大きな地図をつくる。
機能・コンテンツ	<ul style="list-style-type: none"> うどんやハンバーガーの自動販売機 フードコート（カフェ、海鮮井などを提供する食堂） 市場のように獲れたての海産物の販売 お弁当の販売
	<ul style="list-style-type: none"> 音声付きの案内板 海の見えるリラクスクスルーム（足を伸ばせる、飲食物を持ち込まない、ペット同伴のスペースを別で用意） シャワー室、入浴施設 トイレのふたをホタテの貝殻の形にする トイレを広くきれいにする。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 山田町のグッズなどを販売するお土産コーナー 直接海の生き物と触れ合えるコーナー（子どもが楽しめる機能） 道の駅発のツアーを行うため、シャトルバス乗り場の設置（道の駅⇨オランダ島、鯨と海の科学館など） ペットの遊べるスペース（長旅で疲れたペットの休憩）
	<ul style="list-style-type: none"> シイタケと鮭のホイール焼き 山田ラーメン～海味～（塩ベース、ホタテ・カキ・ワカメ・メカブ・シユウリなど山田で獲れる海産物） 山田ラーメン～山味～（しょうゆベース、シイタケ・タラの芽・ワラビ・ウルイなど山田で獲れる山の幸） シイタケのだし茶漬け 海茶漬け（アサリや昆布の出汁） シイタケご飯 山田町の食材を使った海鮮丼 缶バッチ、キーホルダー、ぬいぐるみ、筆記用具（山田の祭り関係） お祭りカレンダー
商品	<ul style="list-style-type: none"> 牡蠣チャウダー オランダ島ケーキ、ドーナッツ（ずんだクリーム、スポンジ、貝殻チョコ） 山田クッキー（お神輿やオランダ島、ヤマダちゃんのアラスタをプリント） 山田せんべいソフト 山田生せんべいクレープ ワカメバウムクーヘン（小分けにして販売） クジゼリー（クジラの形のゼリー） 貝殻の形のマドレーヌ 山田湾を模したカレー（オランダ島と小島のようなご飯の盛り付けをし、海の部分をカレーにする。ご飯にわかめを混ぜて、島の木をイメージしたご飯にする。） 山田パエリア イカ墨パスタ
	アイデア



(3) 株式会社ゼンリン守屋之克氏 講演

■「道の駅」における利用の傾向と魅力とは…

- ・ 道の駅の利用目的は、「休憩」「特産品購入」「道路・観光情報収集」が上位
- ・ 東北は全国平均に比べ「道の駅めぐり」を目的とする利用者が多い傾向
- ・ 道の駅の評価ポイントは、「特産品」「食事・味覚」「店舗・施設の充実度」が上位
- ・ 東北の道の駅における人気上位は以下の通り。それぞれ何らかの特徴がある。

⇒特色をどのように打ち出すかが重要

図表 2-17 東北管内における道の駅 上位5

	名称	人気の主な理由
1位	あ・ら・伊達な道の駅	品揃え
2位	道の駅象潟「ねむの丘」	景色の良さ、温泉
3位	道の駅米沢	食事・味覚
4位	道の駅「上品の郷」	-
5位	道の駅 雫石あねっこ	-

- ・ 人を惹きつけるポイントは、「気軽さ」「その土地らしさ」「非日常感（観光客）」
- ⇒訪問価値をどう高めるか。わざわざそこに行く理由をつくるのが大切

■「道の駅」好事例紹介

○ 道の駅 日立おさかなセンター（@茨城県日立市）

- ・ 海鮮丼の具材を自由に選ぶことのできる「身勝手丼」が人気。
- ・ 主な商圈は水戸首都圏。
- ・ 月末にイベントを開催しており、利用者向けの「競り」などが楽しめる。

○ 道の駅 もてぎ（@栃木県茂木町）

- ・ 中学校の廃校跡地に加工場を設置。柚子を買い取り、加工場を利用して6次産業化
- ・ 米粉パームクーヘンの工房を構えた。
- ・ メインにはなりにくい食品の利用。

○ 道の駅 氷見（@富山県氷見市）

- ・ 1999年登録、2012年移転により、機能に移すと同時に、温泉施設や足湯を新たに整備
- ・ 施設内は漁師の番屋をイメージし、テナントが分かれている。個人商店で買い物しているような印象。
- ・ 湾越しの景観が特徴。
- ・ 寒ブリシーズンに限らず、「食+温泉+景観」でリピーターを獲得している。

○ 道の駅 のと千里浜（@石川県羽咋市）

- ・ JAと市が後押しする「自然栽培」農法で作った「羽咋米」をブランド化。
- ・ 加工品の数が圧倒的に多い。催事にも対応している。
- ・ 外部へのPRも積極的に実施。
- ・ 獣害対策で仕留めたイノシシ肉を使い、猪肉のカレーパン、猪肉を使用したカレーのレト

ルトパックなどのメニュー開発を行っている。

- ・ヒットの要因として、デザインに力を入れていることが挙げられる。ブランディング力。こうしたことが次の購入意欲に繋がっている。

○ 道の駅 笠岡ベイファーム (@岡山県笠岡市)

- ・鮮魚コーナーで毎日「魚の詰め放題」を実施しており、オープン以来の人気イベント。ビニール袋に一斉に入れていき、全身が袋に入りきっていなくても可。10分程で魚が無くなる。
- ・地元より、近隣の市町村からの来客がメイン。干拓地を使った四季の花を見るついでに立ち寄る方も多い。
- ・何らかの売りをつくるべく、採算度外視で集客に繋げている。

○ 道の駅 たけはら (@広島県竹原市)

- ・周囲にフレンチが味わえるレストランが無かったため、フレンチシェフを呼び、「本格フレンチが味わえる道の駅」としてオープン
- ・海、山療法の地元食材を使ったメニューが特徴的。
- ・重伝建の起点に位置していることから、観光案内を行うと共に、地元ユーザーにも食材の新たな食べ方の提案・発信を行っている。

○ 道の駅 北浦街道 豊北 (@山口県下関市)

- ・景勝地「角島大橋」が近く、景観＋食事によるインスタ映えが人気
- ・「おまかせ海鮮丼」が人気
- ・仲買資格を持ったスタッフが地元漁港で買い付けを行い、レストランや店売している。
- ・地元にスーパーがないため、日用品の販売を行うコンビニ機能を併設している。そのため、観光客だけでなく、地元客からも人気。

○ 道の駅 よしうみいきいき館 (@愛媛県今治市)

- ・魚介類を使った海鮮七輪 BBQ が人気
- ・しまなみ海道が自転車の聖地となっていること、またレンタサイクルを行っていることから、海外、特にアジア系のサイクリストの観光客も多い。中国語などアジア圏の言語に対応できるスタッフを準備。英語圏のインバウンド客に関しては、英会話のできるスタッフが対応。
- ・渦潮を見ることのできる観潮船が道の駅から出航しており、観光の拠点になるなど、目的地化している。

○ 道の駅 むなかた (@福岡県宗像市)

- ・トップクラスの売り上げを誇る道の駅。
- ・売り場の半分で鮮魚を販売。鮮魚に関しては、近隣4か所の漁港から漁師が直接持ち込み販売している。午前中には売り切れてしまうため、漁師も時間をずらしてくる。
- ・野菜、果物に関しても買われており、相当な品揃えを誇っている。
- ・「福岡・北九州」間に立地しているため、ドライブがてら立ち寄る客も多い。
- ・魚文化継承のため、魚の捌き方体験（子ども向け）を定期的に行っており、人気がある。



○ 道の駅 いとまん (@沖縄県糸満市)

- ・ 2019年の「トリップアドバイザー」道の駅ランキング1位
- ・ JA、漁協、物産センターがそれぞれ別棟で建ち、組合組織で道の駅を運営
- ・ 食材目当ての地元客だけでなく観光客も楽しめるよう、一口サイズで販売しており、気軽に海の幸を味わえることから観光客（外国人も多い）に人気

-
- ・ トイレ、手洗い場、ロケーションも含めて、売りとなっている。
- ⇒トイレがセールスポイント化している。ロゴの工夫や、オリジナリティの創出など、うまく利用することが大切。
- ・ 子育て支援施設を併設し、地元向けにも道の駅を核として人を集める工夫をする自治体が増えてきている。おむつの販売や、液体ミルクの販売を行っている事例もある。
-

■ 「道の駅」のあるべき姿とは…

- ・ 誰のための「道の駅」であるべきか。
⇒観光客 or 地元客に特化した道の駅の方が人気。ターゲットがぼやけないように注意が必要。全員を対象とするとぼやける可能性が高く、深い印象が残らないリスクも高い。
- ・ 何を伝えたいのか。
⇒明確に見えないとダメ。どう伝えるかも重要。
- ・ 町全体が「道の駅」のビジョンを共有できるか。
⇒行政の協力が必要不可欠。整備した後は運営者に全てを委ねるとして、運営が苦しくなっている例がある。行政が、町全体の問題として、どう後押しするか。運営者任せにしないことが重要。6次化や、販路の確保など、町の後押しをすることが重要。住んでいる人がどう関わっていくか。

図表 2-18 株式会社ゼンリン守屋之克氏 講演 質疑・応答

①	質問内容	回答
①	新たな道の駅が高速道路のすぐ側にできるが、SAやPA的な使われ方が良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 三沿道を通ると三滝堂からさんりくまでトイレがないため、そこで広域連携を図りたいという話を聞いた。新たな道の駅も三沿道に近いことから、トイレ利用がメインになることが予想される。 ・ トイレ休憩を目的にしてくる人は、ほとんど町には下りない。トイレ休憩後すぐに移動してしまう点では、PAに近い。 ・ 町中に人を流すためにも、通過されずに滞留させる仕組みづくりが大切
②	道の駅に関して、「商圈」という発想はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ないと云えない。川場田園プラザ（@群馬県）は、7割の客が首都圏から来ている。どう価値を見出すのが大切。山田町の新たな道の駅に関しても、価値の見出し方次第で盛岡や仙台から集客することもできると思われる。 ・ ただ、地元客中心の道の駅も多い。
③	山田町の新たな道の駅と似た立地の事例はあるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新たな道の駅が隣接する三沿道が「無料」であることに着目すると、山陰道沿線が似た立地になるかと思う。山陰道沿線の鳥取－島根の事例は参考になるかもしれない。 ・ 山陰道の事例に関連する話では、新しく山陰道が整備されたことによって、下道沿いにあった元々の道の駅が苦戦するようになった。
④	指定管理者の成功例は、どんな人が集まっているか。道の駅「のと千里浜」に関しては、デザインに特化した人が集まっているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道の駅「のと千里浜」の事例では、第3セクターを立ち上げ、事前の準備を行った。その際に、(株)四万十ドラマの立ち上げ集団のアドバイスを受けた。 ・ 「どうやって知ってもらうか。」ということに関して、市町村全体で盛り上げていくことが大切 ・ 出荷する側が距離を置いて、出し控えや、様子見をする場合もあるため、どれだけ住民を巻き込めるかが重要。
⑤	今回提示していただいた事例の規模感と、収益、集客力のバランスを知りたい。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 箱は大きく、成功により事業規模を拡大した事例がある。 ・ 山田町の新たな道の駅も、スタートはコンセプトをつくり、徐々に事業を拡大していく方が良いと思う。
⑥	温泉はあった方が良いか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人気は高い。車中泊の人が利用することもあるが、人気の一番の理由は、温泉が「非日常感」を演出することだと思う。 ・ ただ、温泉が100%必要かという点、そうでもないと思う。
⑦	東北道の駅の人気トップ5は、売り上げ、収益についてもトップクラスか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 売り上げや収益に関して公表している道の駅は少なく、5つすべてに関しては分からないが、あ・ら・伊達な道の駅に関しては、売り上げや収益についてもトップクラス



(4) 第2回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年9月18日（水）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：15名

※参加者名簿は別紙



図表 2-19 第2回検討専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢15名にお集まりいただき、第2回検討専門部会を開催しました。

今回の検討専門部会は2部構成で実施し、前半は(株)ゼンリンの守屋之克氏に『道の駅』好事例紹介』と題した講演を頂きました。

「気軽さ」「その土地らしさ」「非日常感（観光客）」が利用客を引き付ける大きなポイントであり、また独自の特色を打ち出すことが重要であるとのことでした。

今後、検討を進めていく上では、「道の駅」のあるべき姿として「誰の為の『道の駅』であるべきか」、「『道の駅』を通して何を伝えたいのか」「町全体が『道の駅』のビジョンを共有できるか」という視点が大切であるとお話いただきました。

後半は守屋氏の講演を踏まえ、前回の議論に引き続き、新たな道の駅に必要な機能・コンテンツと、コンセプト「(仮) 美しい山田湾から得られる豊富な海産物・地魚」に関する議論を行いました。予定時間いっぱいまで意見が出るなど、前回にも増して白熱した議論が行われました。

【観光施設検討専門部会】

- ・コンセプトに関しては、1月下旬から春先まで定置網がシーズンオフになることや、春や秋は山菜、シイタケ等の山の恵みが豊富であることから、山田湾を象徴とした海だけでなく山も含めて「山田町」であり、海と山が繋がっているストーリーを伝え、三陸、陸中の中での山田町の特徴をイメージするような言葉で認知度を高めることが必要というお話がありました。
- ・機能・コンテンツは前回出された案に対して、山田町の地域資源を活かした「観光客向け」の「食べもの」「遊び/イベント」に分類されたものが多くありました。
- ・町の「文化」を伝える内装デザインとしては「番屋」をイメージし、建物は木材を使用し、施設内は小さな店舗が並んでいて、漁具を置き、浜っぼさを演出するとの提案がありました。

【物産施設検討専門部会】

- ・美味しいカフェや、おしゃれな商品、また野菜詰め放題や、魚の掴み取りなど、地元客・観光客双方の女性が「トキメク」コンテンツを新たな道の駅に導入することが提案されました。
- ・また男性が「トキメク」機能として、関口川など周辺の釣りスポットを活かすべく、手ぶらで来た人間が釣りを楽しめるよう、氷のサービスや釣り具のレンタルをすることが提案されました。
- ・そして新たな道の駅では、山田町の特産品を活かした「ホタテ釣り」など、その場ですぐに体験できるコーナーを設けることが提案され、議論の結果、複数の案が出されました。

図表 2-20 第2回検討専門部会 出席者一覧

【講演者 1名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	株式会社ゼンリン	守屋 之克		○

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		○
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		○
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		○
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		○

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		○

◆観光施設検討専門部会の記録

図表 2-21 第2回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録

必要な機能・コンテンツ		観光客向け
地元客向け	地元客・観光客どちらも	
自然環境	—	—
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> ・ 下処理が可能なスペース (観光客は店の人に処理を頼む) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ おいしいコーヒー屋、洋食店 (まずは地元) に受け入れられることが大事)
遊び／イベント	<ul style="list-style-type: none"> ・ 屋台・キッチンカー呼べるイベントスペース (地元の人を呼ぶ為のイベント、観光客はたまたま立ち寄る) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ドッグラン、アスレチック遊具 ・ カヤックの貸し出し (地元向け、初心者には難しいので観光客はツアーに呼び込む) ・ 釣り船に乗れる情報
産業文化	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 震災関連の展示 ・ 陸中山田駅から道の駅までの周遊・連携
その他	—	<ul style="list-style-type: none"> ・ 24h トイレ (地元の釣りする人も夜に使う、コンビニでも買わずにトイレ利用しづらい) ・ ペット同伴できる BBQ スペース ・ 地元の既存店舗をテナントとして誘致
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 団体客 (80人程度) が入れる食事処 ・ オリジナル商品開発の加工室
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 内装について ⇒ 浜っっぽい番屋風の味のある空間 (演出した汚さ) ・ 小さい店が並んでいる ・ 漁具を並べる ・ カキ殻等を装飾に使う ・ 木材 (古材でアンティークっぽくても良い)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 釣具レンタル、氷のサービス (昼の釣り客向け、たまたま立ち寄り客であれば利用する) ・ 自転車レンタル ・ 海を体感できる ・ 生簀を設置、魚を釣れる、魚に触れる ・ 「海の町」を体験できるコンテンツ ・ その場ですぐに体験できるコーナー
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 冬はグラランピング、小学校でキャンプ (受付は道の駅) ・ 釣り客向けのサービス ・ 釣り具レンタル、氷のサービス (昼の釣り客向け、たまたま立ち寄り客であれば利用する) ・ 自転車レンタル ・ 海を体感できる ・ 生簀を設置、魚を釣れる、魚に触れる ・ 「海の町」を体験できるコンテンツ ・ その場ですぐに体験できるコーナー
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 目利きスタッフ、漁師、農家が売り場に立つ ・ 大試食コーナー ・ 魚を氷上にそのまま載せる (美味しそうに見える、においもわかる) ・ 「山田産」しか置かない (全国の「山田」産の商品でも良い)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 買ったものをその場で網焼き ・ インパクトのある商品 (ホタテ山盛り丼等) ・ 地元食材を出すレストラン、地元と同様の朝食提供、昼に地魚食べられる食事処
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 目利きスタッフ、漁師、農家が売り場に立つ ・ 大試食コーナー ・ 魚を氷上にそのまま載せる (美味しそうに見える、においもわかる) ・ 「山田産」しか置かない (全国の「山田」産の商品でも良い)
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 買ったものをその場で網焼き ・ インパクトのある商品 (ホタテ山盛り丼等) ・ 地元食材を出すレストラン、地元と同様の朝食提供、昼に地魚食べられる食事処



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 2-22 第2回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

		必要な機能・コンテンツ	
		地元客・観光客どちらも	観光客向け
環境 自然	地元客向け		<ul style="list-style-type: none"> ・ドローンによる映像などを使いながら、山田湾の風景を楽しめるトイレの設置 ・「海のまち」を体験できるコンテンツ ・郵送できるサービス ・魚を水の上に乗せて販売（コストや、魚介類の鮮度の観点から生簀より有効！） ・生簀による貝類や魚介類の販売や、釣り体験（水温の調整が重要！） ・買ったものをその場で焼ける網焼きスペース（ペット同伴でも楽しめるよう屋外が理想） ・山田産の素材を活かした商品 ・地元の人と同様の朝食メニューの提供（塩ういにおにぎり、イカ刺など）
食べもの	<ul style="list-style-type: none"> ・地元客が仕事終わりに立ち寄れるように営業時間を延長 ・屋に地魚（刺身）が食べられる食事処 ・地元客の既存店舗をテナントとして誘致 <p>※地元商店と競合しないよう注意！</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女性向け「トキメク」コンテンツ（おしやれ、品揃えの豊富さ） <ul style="list-style-type: none"> ・美味しいカフェ、洋食店 ・おしやれな商品（タピオカ、オランダの食べ物など） ・野菜の詰め放題 ・魚のつかみ取り（生鮭、小魚など） ・大試食コーナー ・オリジナル商品の開発が可能な加工室 ・地元食材を出すレストラン（夜まで営業することにより、車中泊客への配慮も） 	
遊び／イベント		<ul style="list-style-type: none"> ・男性向け「トキメク」コンテンツ（釣り） <ul style="list-style-type: none"> ・氷のサーブ、釣具のレンタル ・魚の下処理や、捌くことが可能なスペース ・「山田産」しか置かない店 ・ドッグラン ・子ども遊び場、アスレチック 	<ul style="list-style-type: none"> ・目利きスタッフや漁師・農家などの生産者が売り場に立ち、捌き方などを教える ・カヤックの貸し出し窓口 ・松茸小屋（時々、競りに参加できる）
産業／文化			
人／その他			<ul style="list-style-type: none"> ・深呼吸が出来るような綺麗なトイレ ・牡蠣の貝をモチーフにしたデザイントイレ ・24Hトイレ ・EV車の充電用プラグ ・アシスト付き自転車レンタルによる町全体の周遊性アップ ・RVパーク ・「冷凍庫部屋」（ドライバターの眠気覚まし） ・屋台、キッチンカーを呼べるようなイベントスペース



(5) 第3回 山田町新たな観光拠点検討専門部会

■実施概要

日付：令和元年12月6日（金）

場所：山田町役場5階委員会室

参加人数：12名

※参加者名簿は別紙



図表 2-23 第3回検討専門部会の様子

山田町で様々な観光業、農林漁業、サービス業に携わって頂いている方、総勢12名にお集まりいただき、第3回検討専門部会を開催しました。

今回の検討専門部会では、ワークショップ形式での議論に入る前に、基本計画（案）に対する意見交換が行われました。部会員からは新道の駅の整備コンセプトに対する意見が多く挙げられ、「海の幸」、特に「牡蠣」を前面に押し出した道の駅整備・PRを行うべきであるとの意見が出されました。

その後のワークショップ形式の議論は、新道の駅の「運営」を主なテーマに行われました。部会員の多くが普段から運営に携わっているため、運営者の立場から新道の駅の計画について多くの意見を頂きました。また部会員の方々からは、道の駅の好事例について学ぶ機会を求める声や、新道の駅の運営を自分事として捉える声が聴かれ、これまでも増して積極的な議論が行われました。

最後に事務局から、検討専門部会は今回で閉会となるが、来年度新たに発起人会を発足し、そこで改めて協力を仰ぐ可能性がある旨の告知がされました。

【観光施設検討専門部会】

- ・新道の駅が「観光の窓口」となることも重要であるが、道の駅自体が儲かる仕組みを作ることも重要であり、その扇動となれる人物（ex. 中澤さかな氏）が不可欠であるとの意見が出されました。
- ・また各々のコーナーを運営できる専門家が必要であり、その一例として、部会のメンバーがそれぞれの知識を活かして新たな組織をつくることが提案されました。
- ・情報発信コーナーについては、ツーリズムの情報発信だけでなく、その場で受付も行えるよう、運営者の事務所を併設することが提案されました。
- ・テナント施設については、現状町に空き店舗が無く、新たに出店する意欲のある人の受け皿がないことから、週替わり、月替わりで様々な店舗に入ってもらおうことが提案されました。

【物産施設検討専門部会】

- ・トイレにおいて映像を流す等、トイレ利用者に対して町の情報を発信する仕掛けが必要であるとの意見が出されました。
- ・情報発信コーナーについては、デジタルサイネージの導入により常に新しい情報を提供することや、常に案内対応できる人を配置しておくことが提案されました。
- ・また情報発信については、観光情報やツーリズムに関するだけでなく、「釣り」の情報（イベント、釣り場、レンタル等）を多く提供することが提案されました。
- ・飲食コーナーでは、釣った魚や購入した魚介類を、店側が有料で処理、調理する仕組みが提案されました。

図表 2-24 第3回検討専門部会 出席者一覧

【観光施設検討専門部会 部会員 6名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町観光協会	沼崎 真也	部会長	○
2	新生やまだ商店街協同組合	椎屋 百代		○
3	山田町商工会青年部	松本 龍太		○
4	R45design	佐藤 健		○
5	ジオトレイル	川村 将崇		○
6	山田町特産品販売協同組合	芳賀 隆		○

【物産施設検討専門部会 部会員 7名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	山田町特産品販売協同組合	阿部 達也	副部会長	○
2	観光物産館とっと	佐藤 博子		○
3	山田町商工会女性部	佐々木 千鶴子		○
4	山田町商工会青年部	間瀬 慶蔵		○
5	三陸やまだ漁業協同組合	鈴木 雄寿		○
6	JA 新いわて宮古営農経済センター	武藤 勝久		×
7	大沢養殖組合	鈴木 正幸		×

【オブザーバー 2名】

	団体等名称	氏名	備考	出欠
1	やまだ復興応援隊	服部 真理		○
2	山田町地域おこし協力隊	中島 崇		×

◆観光施設検討専門部会の記録

図表 2-25 第3回検討専門部会 観光施設検討専門部会の記録

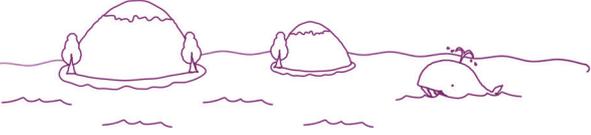
導入機能 (規模想定)		運営者に求める事業者像	その他意見等
	全体	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅で儲かる仕組みをつくれる人 (例：中澤さかな氏) 新しい風を吹き込む人 各々のコーナーへの専門家の配置 部会メンバーでの組織形成 	<ul style="list-style-type: none"> 道の駅「コンキリエ」の事例見学 運営者が決まらない段階では、パークションの利用により空間をフレキシブルに活用できるように工夫
①	24時間トイレ (230㎡)		<ul style="list-style-type: none"> コインシャワールの設置
②	道路情報施設 観光情報施設 (170㎡)	<ul style="list-style-type: none"> ツーリズムの受付まで行える人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信コーナーに運営者の事務所を併設することにより、事務所のカウンターからすぐに案内対応が可能な仕組み 宮古を利用するフェリー客、トラックドライバーの立ち寄りへの対応の充実 (24時間利用可能な休憩スペース等) 朝限定メニューの提供 (イカ刺し、朝ラーメンなど) 浜焼きは炭火で対応 「④テナント施設」と「③飲食施設」は一体の空間として整備し、その一角をチャレンジャーとしてテナント誘致 花巻市東和町で行われている「ワンデイシェフ」のように、日替わり、週替わりで店舗を入れ替える仕組み
③	飲食施設 (300㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 牡蠣小屋として営業 	
④	テナント施設 (60㎡)		
⑤	産地直売施設 (400㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 接客レベルの高い人物・団体 	
⑥	バックヤード (160㎡)		<ul style="list-style-type: none"> トラック2台が直接乗り入れ可能な大きさの間口を確保 牡蠣の運搬をするのであれば、フォークリフトも入る大きさが必要
⑦	食品加工施設 (30㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 食品加工スペースの拡大
⑧	事務室 (50㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 施設の運営スタッフ以外に、ツーリズムのスタッフが常駐し、すぐ現場に行ける体制 	<ul style="list-style-type: none"> 「②道路・観光情報施設」と一体の空間として整備
⑨	体験施設 集会施設 (140㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 「③飲食施設」と一体の空間として整備を行い、パークション等でイベント時に空間を仕切れる仕組み 外国人観光客の体験需要が増えているため、山田せんべい焼き体験等、火を使用できる空間の整備



◆物産施設検討専門部会の記録

図表 2-26 第3回検討専門部会 物産施設検討専門部会の記録

導入機能 (規模想定)		運営者に求める事業者像	その他意見等
全体			
①	24時間トイレ (230㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 映像を流す等、町の情報を発信する仕掛けの整備 男性用トイレの増加 SA基準の清潔感
②	道路情報施設 観光情報施設 (170㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 常に案内対応を行える人物(2名程度)の配置 魚の下処理を行える人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルサイネージの導入により、常に新しい情報の提供 釣り情報の充実(イベント、釣り場、レンタル等) コピー機の設定 浜焼きは管理面から、炭火でなくガスで対応 朝、昼中心の営業 釣った魚や購入した魚を店側が有料で処理・調理するサービス 生食の牡蠣を提供 フレキシブルな座席配置 気軽に立ち寄って食べられる仕組み、品揃えの充実 6人掛け×6テーブル、4人掛け×6テーブルの規模感 レストランは個室にせず、オープンな内装 フードコートは立ち食いそば等のイメージ
③	飲食施設 (300㎡)		
④	テナント施設 (60㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 「③飲食施設」のフードコートと一体の空間として整備 20㎡×2店舗程度の広さで十分 営業時間を柔軟に変えられるような仕組み 組合員限定の特典(家賃の10~15%でテナント貸し出し等)
⑤	産地直売施設 (400㎡)	<ul style="list-style-type: none"> 広告、PR技術に長けた人物・団体 	<ul style="list-style-type: none"> 500㎡の大きさを確保 9時-18時で営業 法人、個人を含めた協同組合の組織(100人規模) 買いたくなるような広告、PR 可能な限り「山田町産」のものを提供 「野菜/魚」や「冷蔵/冷凍」はスペースを分離
⑥	バックヤード (160㎡)		
⑦	食品加工施設 (30㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 弁当の販売(レストラン等との連携)
⑧	事務室(50㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 15㎡程度で十分
⑨	体験施設 集会施設 (140㎡)		<ul style="list-style-type: none"> 松茸だけでなく、海産物の競りも時間限定で開催 誰でも参加可能 朝釣った魚を観光客に向け販売



2-3 WEB アンケート調査

(1) 調査目的

■ 山田町の観光資源に関する現状認識を整理したい。

- ①山田町の認知度を回答者居住地別に整理する。
⇒認知度を高めるべき層はどのような人か把握。今後の KPI 管理指標にもなる。
- ②山田町の観光資源の認知度を、資源別に整理する。
⇒どういった分野が人気なのか（記憶に残っているのか）把握。強みの理解となる。

■ 今後、ターゲットとなる道の駅利用者像を設定するための基礎資料を得たい。そのために、利用者が道の駅に求めていることの一般解を得たい。

- ①利用頻度別に回答者属性（年齢、世帯構成）を整理する。
⇒「道の駅」の利用頻度が高いひとはどのような人か把握。
- ②三陸沿岸地域における「道の駅」利用者の傾向を把握する。
⇒三陸沿岸の「道の駅」を利用しているひとはどのような人か把握。
- ③利用頻度ごとに道の駅に求めている用事を特定する。
特に、利用頻度が比較的高い人の傾向を把握する。
⇒「道の駅」の利用頻度が高いひとはどのような人か把握。
- ④消費金額ごとに道の駅に求めている用事を特定する。
特に、消費金額が高い人の傾向を把握する。
⇒「道の駅」でお金を多く使ってくれるひとはどのような人か把握。

(2) 調査方法

1) 調査実施期間

Web アンケートにより、調査を実施した。

期間：令和元年 8 月 12 日～22 日

2) 調査実施期間

山田町を訪れる上での意思決定者となりうる、仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏、三陸沿岸道路沿線市町村在住で、15 歳以上の居住者を対象とした。サンプル数は 1500 票に設定した。

(3) 調査結果

調査結果は次頁以降に記載します。

山田町「新たな観光拠点」整備 に関するWebアンケート調査結果

令和元年8月
山田町

アンケート実施概要

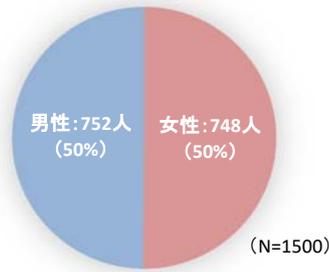
- 実施方法 : Webアンケートによるサンプル収集
- サンプル数 : 1,500票
- 配布対象 : 仙台都市圏、盛岡都市圏、八戸都市圏
三陸沿岸道路沿線市町村の居住者(15歳以上)
- 実施期間 : 令和元年 8/12～8/22

Q1.回答者属性

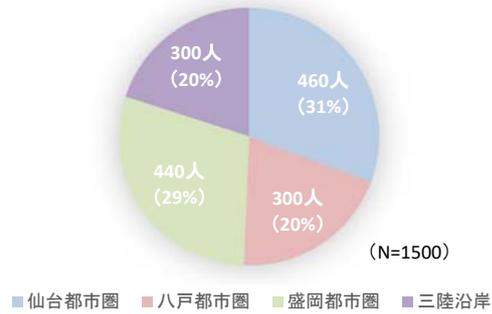
✓ 性別・居住地の偏りはなく、「40代・50代」と「2人世帯」の回答者が多い。

- ・回答者の男女比はおよそ半々であり、居住地に関しては仙台都市圏、盛岡都市圏がやや多い。
- ・40代・50代の回答者がそれぞれ全体の約1/4を占め、世帯構成は2人世帯が全体の約3割で最も多い。

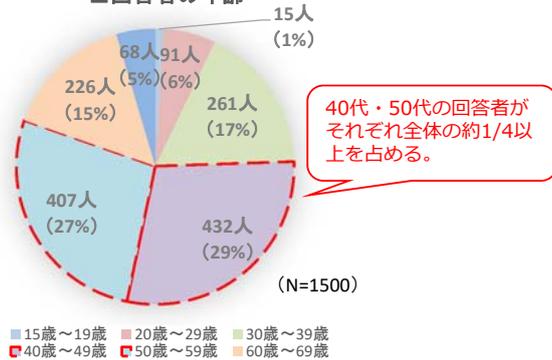
■回答者の性別



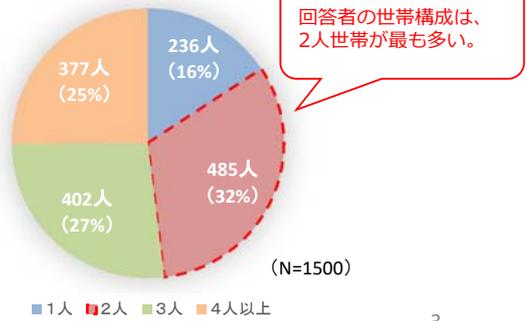
■回答者の居住地(都市圏)



■回答者の年齢



■回答者の世帯人数

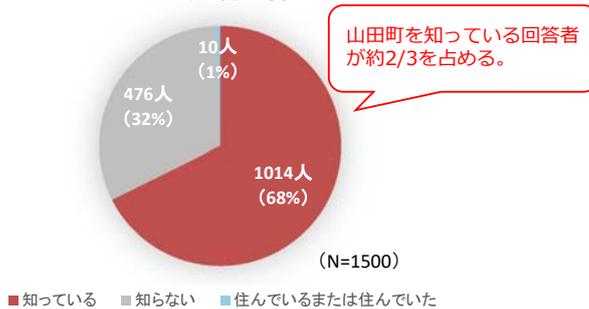


3

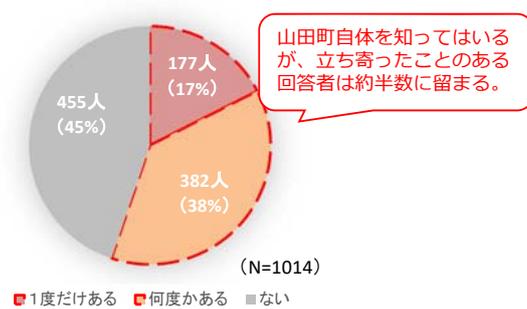
Q2.山田町の認知度

- ✓ 山田町を知っている回答者は約7割、そのうち立ち寄ったことのある回答者は約5割である。
- ✓ 回答者の中でも特に、盛岡都市圏の回答者が最も多く山田町を訪れている。

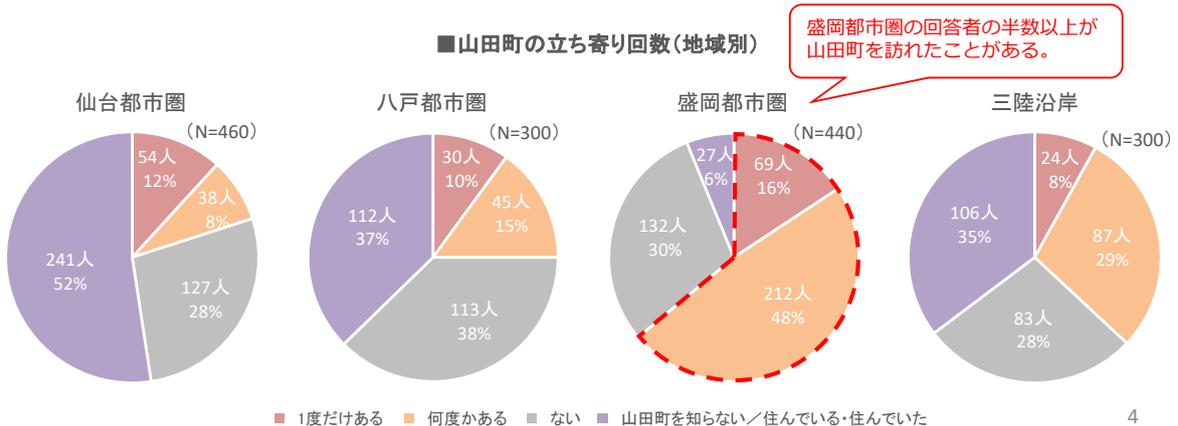
■山田町の認知度



■山田町の立ち寄り回数(全体)



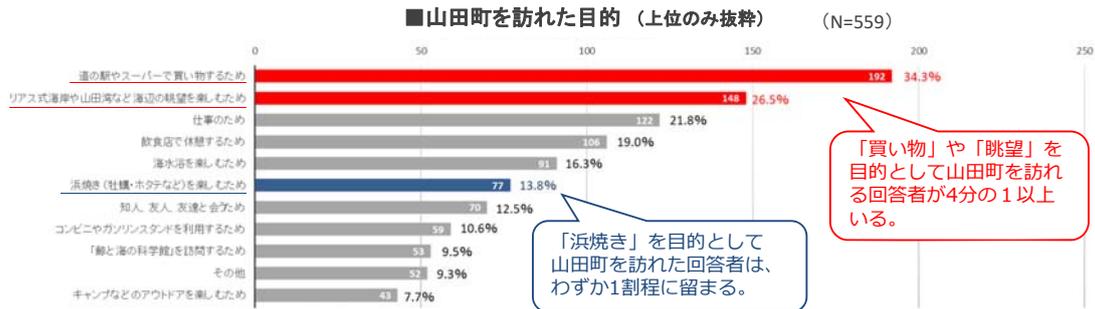
■山田町の立ち寄り回数(地域別)



4

Q2.山田町の認知度

- ✓ 「買い物」や「眺望」が山田町を訪れる目的の上位に来ている一方、「浜焼き」は目的としての認知が現状あまり高くない。
- ✓ どの地域の回答者も、「休憩」を目的として山田町を立ち寄ることがまあまあ多い。



仙台都市圏 (N=92)

目的	人数
1 仕事のため	31
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	19
3 道の駅やスーパーで買い物するため	16
4 飲食店で休憩するため	12
5 浜焼き(牡蠣・ホタテなど)を楽しむため	8

八戸都市圏 (N=75)

目的	人数
1 道の駅やスーパーで買い物するため	28
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	26
3 浜焼き(牡蠣・ホタテなど)を楽しむため	16
4 飲食店で休憩するため	13
5 仕事のため	10

盛岡都市圏 (N=281)

目的	人数
1 道の駅やスーパーで買い物するため	95
2 リアス式海岸や山田湾など海辺の眺望を楽しむため	83
3 海水浴を楽しむため	66
4 飲食店で休憩するため	59
5 仕事のため	57

三陸沿岸 (N=111)

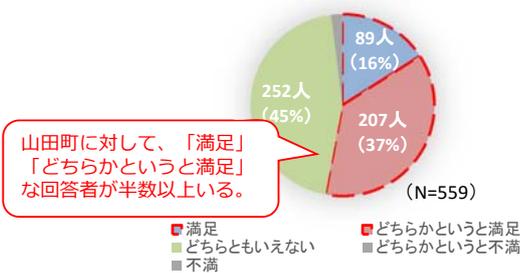
目的	人数
1 道の駅やスーパーで買い物するため	53
2 仕事のため	24
3 知人、友人、友達と会うため	24
4 飲食店で休憩するため	22
5 コンビニやガソリンスタンドを利用するため	21

5

Q2.山田町の認知度

- ✓ 山田町の「景観」、「食べもの」、「体験・イベント」に対する満足度は概ね高く、特に「食べもの」に関しては、潜在的な観光資源としても挙げられる。

■山田町を訪れた際の満足度

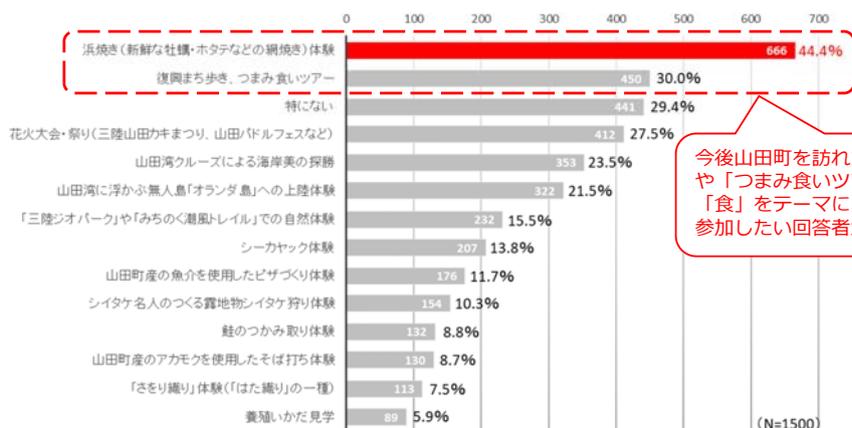


■「満足」「どちらかという満足」と回答した理由

- 山田湾をはじめとする「景観」
 - ・綺麗な海と景色を楽しむことが出来ました。
 - ・養殖棚がたくさん浮かんでいる光景が壮観
- 山田町の「食べもの」
 - ・浜焼きがこれまでに食べた魚介系の料理の中で一番おいしかったからです。
 - ・新鮮な海の幸を堪能することが出来た。／・海鮮ものが安くて豊富
- 山田町での「体験・イベント」
 - ・海水浴とキャンプをする環境が充実していた。
 - ・小島で海水浴とバーベキューを体験したが、海が綺麗で温かく非常に楽しかった。
 - ・山田湾での海釣り／地理的には不便だが、それ以上の価値がある体験ができた。

.etc

■山田町を訪れた際に参加したいコンテンツ

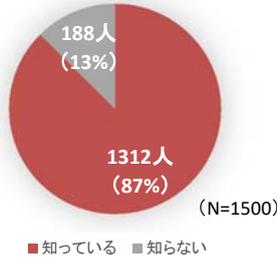


6

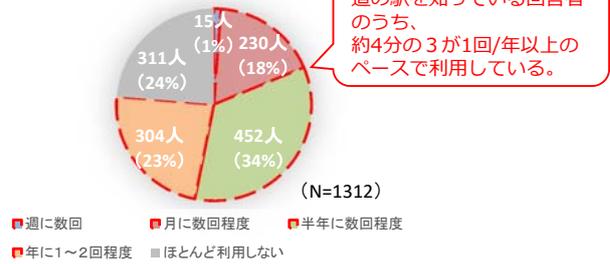
Q3.「道の駅」について

- ✓ 道の駅を知っている回答者のうち、1回/年以上のペースで利用している回答者は75%程いる。
- ✓ 道の駅を利用するにあたり、主にカップル・夫婦で利用する方が約3割、家族で利用する方が4割以上いるが、道の駅での購買行動の意思決定は女性が行っている場合が多い。

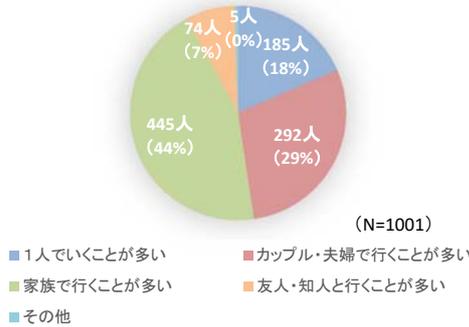
■道の駅の認知度



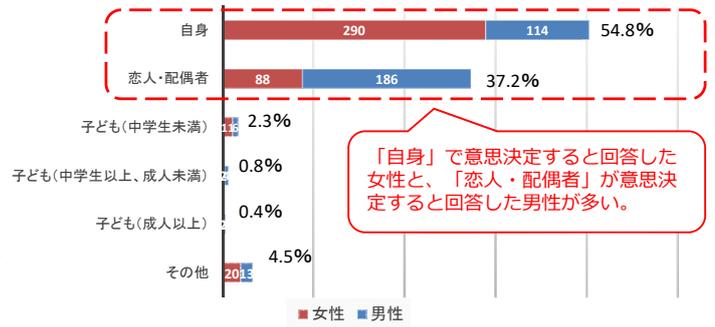
■道の駅の利用頻度



■道の駅を利用する際の同伴者



■道の駅における購買行動の意思決定者 (N=737)

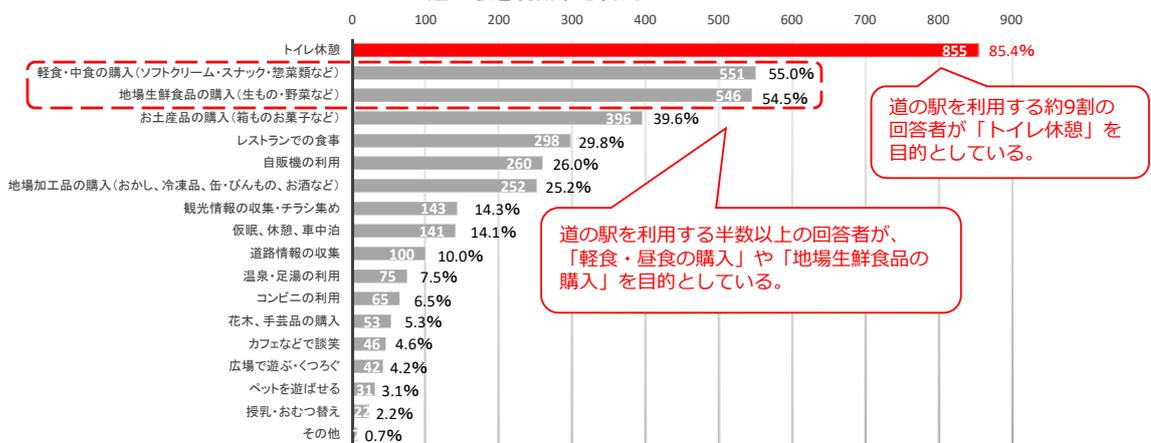


7

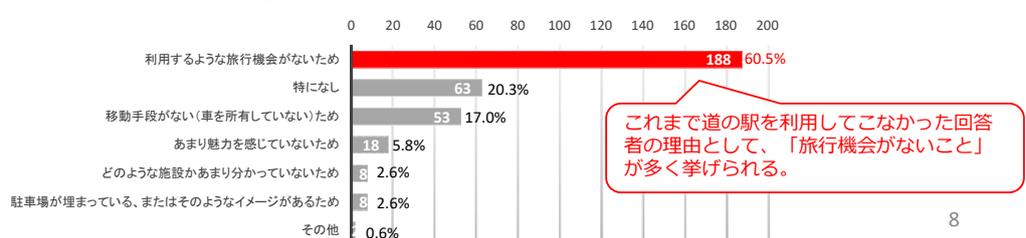
Q3.「道の駅」について

- ✓ 「トイレ休憩」を目的として道の駅を利用する回答者が圧倒的に多いと同時に、軽食・中食や地場生鮮食品の購入を目的とする利用者も多い。
- ✓ 道の駅を利用していない回答者は主に、「旅行機会がない」ことを要因としている。

■道の駅を利用する目的 (N=1001)



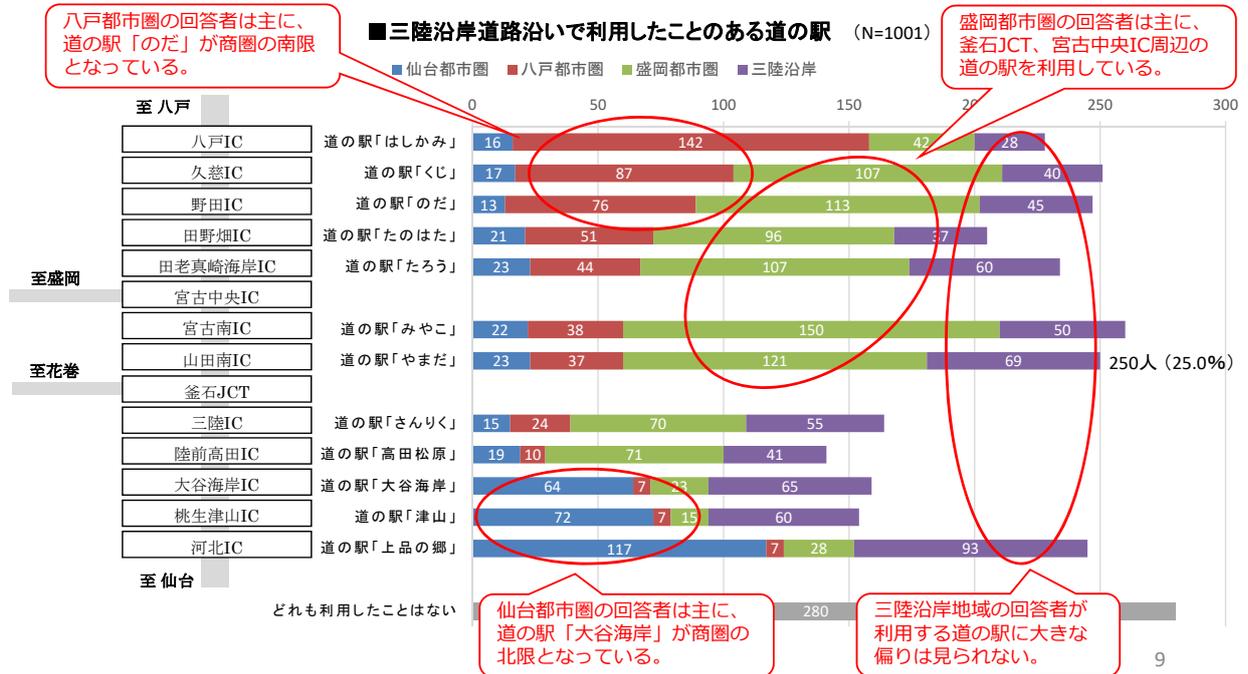
■道の駅を利用しなかった理由 (N=311)



8

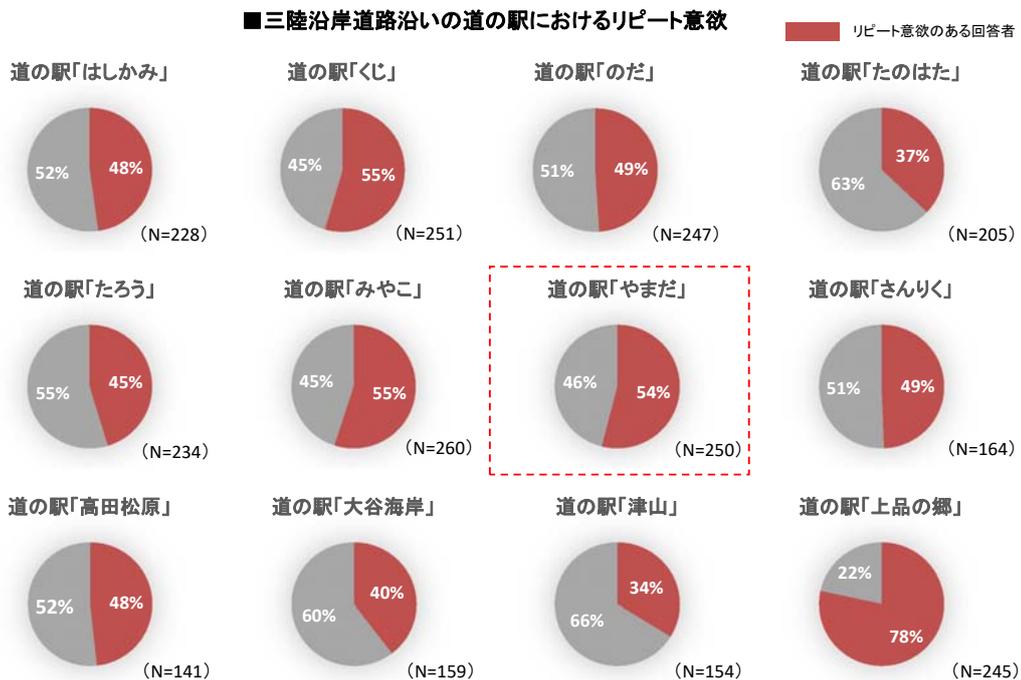
Q3.「道の駅」について

- ✓ 回答者の約4分の1が道の駅「やまだ」を利用したことがある。
- ✓ 仙台都市圏の回答者は道の駅「上品の郷」、八戸都市圏の回答者は道の駅「はしかみ」、盛岡都市圏の回答者は道の駅「みやこ」や道の駅「やまだ」を中心に利用しており、距離が遠くなるに従い利用者が減少している。
- ✓ 三陸沿岸地域の回答者が利用する道の駅に関しては、大きな偏りは見られない。



Q3.「道の駅」について

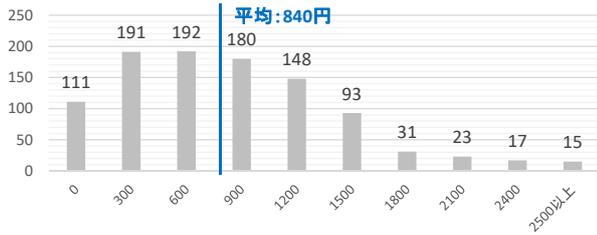
- ✓ 道の駅「やまだ」を利用したことがある回答者の半数以上が、再度訪れたいと回答している。
- ✓ 三陸沿岸道路沿いの道の駅の中では、道の駅「上品の郷」に対するリピート意欲が突出して高い一方、他の道の駅に対してのリピート意欲は、概ね似たような結果となっている。



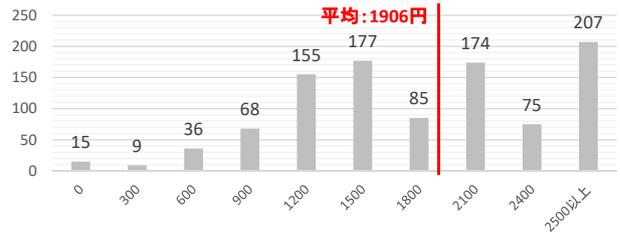
Q3.「道の駅」について

- ✓ 道の駅での消費金額の平均は、「【買い物】 min : 840円、max : 1906円」「【軽食】 min : 376円、max : 793円」「【レストラン】 min : 719円、max : 1384円」となっている。

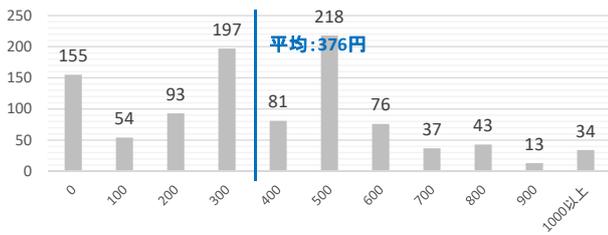
■道の駅での買い物に費やすお金(最小) (N=1001)



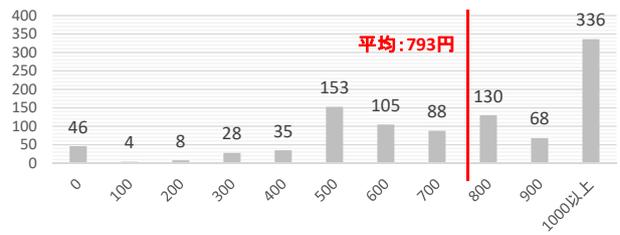
■道の駅での買い物に費やすお金(最大) (N=1001)



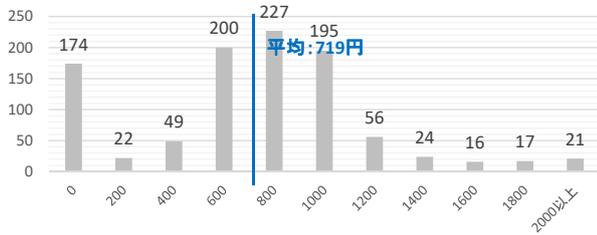
■道の駅での軽食に費やすお金(最小) (N=1001)



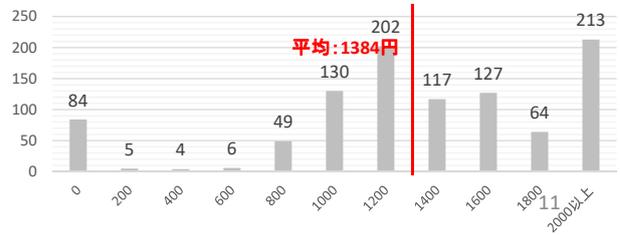
■道の駅での軽食に費やすお金(最大) (N=1001)



■道の駅でのレストランに費やすお金(最小) (N=1001)



■道の駅でのレストランに費やすお金(最大) (N=1001)



Q3.「道の駅」について

- ✓ 「ここならではの」の特徴や、休憩施設としての機能の強化を求める声が多く見られる。

■今後の「道の駅」整備に向けた意見・要望

▶ 地場産品と、それらを利用した飲食スペースの充実

- 地場産を使った料理などを提供するスペースがあると嬉しい。
- 道の駅で売っている物を使った料理の作り方を教えてもらえる
- 地場産品など、そこでしか購入できないものの拡充を望みます。
- オススメの物などが大きく取り上げられてると分かりやすく良いと思う。
- 特産品、ここでしかない商品(特産品、食品)
- 地元の特産品を使って調理した屋台のような出店がいくつか連なれば、レストランよりも気軽に買って飲食できるし、お祭りのように楽しい雰囲気になるので週末だけでもあればいいと思います。 .etc

▶ レストラン/中食・軽食の充実

- ご当地ソフトクリーム(月替わり)
- その土地ならではのオシャレなカフェがいいな
- 地元の食事どころとの連携
- 焼き立てパン
- そこに行かなければ無いような美味しい手作りスイーツ、料理、手作りジュース、カフェのような健康を考えたバランスの良いランチメニューなど .etc

▶ アウトドア、B.B.Qなどを楽しめる屋外空間の設置

- 海鮮焼き
- 必ず犬が一緒に居るので屋根付きの屋外で食事が出来るスペース
- オートキャンプ場の整備
- テントを張れるスペースや簡単な炊事場
- キャンプが出来る公園 .etc

▶ 子どもと楽しめる空間の整備

- 子どもたちが遊べるアスレチック
- 子供が遊べる広場や公園や芝生
- 車移動で疲れている小さい子が遊べる場所があるとありがたい!
- 子供がのびのび遊べる施設。中なら遊具が充実していて外なら水遊びができるなど。
- 子供が楽しめる感じになればいいと思う。道の駅は年配利用が多いイメージだから。 .etc

▶ ペットと楽しめる空間の整備

- ペットの休憩が出来るスペース
- ドッグラン
- ペットと一緒に居るレストラン .etc

▶ 駐車場機能の充実

- 駐車場をもっと広くしてほしいです。
- 屋根付きの駐車場
- ハイブリッド車対応の電気スタンドとガソリンスタンドがあると嬉しい。
- 洗車スペース
- どこが空いているかわかる表示板が入り口付近にあるとありがたい。 .etc

▶ トイレ機能の充実

- トイレをきれいに保ってほしい
- ベビールームの充実。
- ウォッシュレットがあるといい
- 車いすなので、バリアフリーでトイレも専用があると嬉しい。
- トイレが綺麗 男子トイレにもおむつ台を設置してほしい
- トイレ内の照明をもっと明るくしてほしいです .etc

▶ 休憩・宿泊設備の充実/情報提供設備の充実

- 足湯
- 周辺地域の観光地を視覚的に紹介する設備。
- 販売している全アイテムをスマホで確認出来る
- 深夜も休憩できる空間
- 足を伸ばして休憩できる場所/お昼寝の部屋
- ただ座って休めるコーナーを増やしてほしい
- 店舗を利用しなくても仮眠できるようにしてほしい
- 映像での町紹介
- レアな観光情報 .etc

▶ その他

- どの道の駅でも共通のポイントカードを導入
- 車を所有していなくても利用出来る様な移動手段/駅とのシャトルバス
- イベントスペース/楽しいイベント
- Wi-Fi設備/携帯の充電設備
- 銀行ATM/コンビニの併設/薬局の併設
- キャッシュレス化
- 地元の団体に縛られない自由な出店 屋台村のようなもの
- ドライブスルー出来る店
- 営業時間の延長
- 完全禁煙にしてほしい。分煙にするなら煙の漏れない喫煙室を設置してほしい。
- 写真撮れるところ .etc